

ネイチャーポジティブ経済研究会 優先対象分野に関するコアメンバー会議（第1回）
議事要旨

開催日時：令和7年9月1日（月）10時00分～12時00分

開催方法：対面、オンライン

出席者（名簿順）：○原口座長、○後藤委員、○勝田委員、○饗場委員
農林水産省、国土交通省、経済産業省、環境省

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びバリューチェーンマップ
について
4. 閉会

【配布資料】

資料1 : 議事次第

資料2 : 委員名簿

資料3 : 優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及び
バリューチェーンマップについて

参考資料1 : ネイチャーポジティブ経済移行戦略ロードマップ（2025-2030年）

参考資料2 : 優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト

※各用語を省略記載

NP : ネイチャーポジティブ

NPE : ネイチャーポジティブ経済

VC : バリューチェーン

SC : サプライチェーン

議題3. 優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト（以下「ロングリスト」）及びバリューチェーンマップ（以下 VC マップ）について

全体

- ・ ロングリスト・VC マップの想定利用者や想定している法的な情報開示の枠組みがあれば教えていただきたい。
- ・ 環境省：利用者は TNFD 開示に向けた取組をこれから開始される企業を想定している。SSBJ 等の開示対応もあるが、さらに一步踏み込んだ LEAP 分析における自然関連リスク・機会の検討において参考となるものを公表予定。
- ・ 情報開示ということで絞っているが、見える化した後の対策を取ることが難しいという課題もあり、そのあたりを見据えた議論もできればよい。

論点①資料一式の構成案

- ・ 分析省力化のための資料を作成いただき感謝申し上げます。資料の過不足は特に感じない。

今回は製造関連分野で整理する方針とされているが、今後資料を作成する中で製造業とまとめているところをより細分化する余地があるのではないかと。

また、資料作成にあたっては、実務に習熟していない担当者でも活用できるように意識いただきたい。例えば、各資料の使い方や注意点等において、初心者にもわかりやすい表現等で丁寧にまとめていただきたい。実務担当者の具体的な使い方を説明する動画も一案。

さらに、資料0（概要版）ということかもしれないが、経営層の理解を促すための資料等があると良いのではないかと。

海外も含めて、SC 上の企業の協力を仰ぐ過程で使いやすい資料になっていると良い。NP の取組が企業価値向上につながることをうまく図示することも検討いただくと良い。

- ・ リスク・機会がリストアップされていても、自然との接点を整理することは難しく、特に経営層向けの説明は困難。Locate で自然との接点を明らかにした後で依存・影響、リスク・機会を整理するが、実は TNFD のガイダンス上でインパクトドライバーが整理されており、依存経路、影響経路が示されている。インパクトドライバー⇒生態系の状態⇒リスク・機会というフローがわかりやすい。リスク・機会だけ説明されても利用者はわからないのではないかと。リスクに対してインパクトドライバーが何がわからないと対応が難しいため、リスク・機会までの経路を明確に示す必要があるのではないかと。

か。電気・電子4団体のマップも上記を意識して作成している。

- ・ インパクトドライバーの経路を経てリスク・機会に繋がるということがTNFDのコアな概念である。LからE・Aにリニアに繋がるわけではないが、依存の経路が記載されていなければ、なぜそのような対応策が必要なのかがわかりづらい。作業工程は様々あると想定されるが、最終的にはロングリスト（NPEプラットフォーム版）（以下「NPE版」）でもそのようなフィルタリングができるようになると良いのではないか。TNFDがテックセクター向けガイダンスを作成予定であり、電気・電子4団体が作成されたロングリストが参考資料として提出されている。TNFDはこれを参考にするのではないかと考えており、そうなる日本への貢献度が大きい。ここに対してインプットしていく意味でも概念設計を深化させても良い。

論点②優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びVCマップのイメージ

- ・ 製造関連分野について、今回触れているのは化学、バイオテクノロジー・医薬品、アパレルの3つであり、利用者より「自身のセクターは検索しても出てこない」という声が挙がると想定されるが、環境省としてはどのように考えているのか。
 - ・ 環境省：TNFDのセクターガイダンスからリスク・機会を抜粋している場合には、セクター分類の列で該当する箇所に○をつけている。他方で「全般」という列はガイダンスがあるセクターだけではなく製造関連分野全般に関わるリスク・機会として、事務局にて判断の上で○をつけている。
- ・ 製造関連分野の「全般」という文言は、その他の列の業界分類以外の製造分野全般に関連するという意味ではあれば、それがより伝わるような文言への修正が必要。
 - また、リスク・機会の例示の記載があるとインパクトドライバーからどのようにリスク・機会に繋がるかが分かりやすい。
- ・ 基本的な考え方は良い。自動車は世界経済フォーラム（WEF）でセクターガイダンスが出ているがそれは含まれるのか。既にあるものはうまく使っただけなら良い。
 - ・ 環境省：NPEプラットフォーム版のロングリストでは「製造業」というフィルタリング項目があり、その中でさらにアパレル等のサブセクターに絞りたい方はセクター単位でフィルタリングいただく、ということを想定している。
- ・ ロングリストを活用する企業は網羅性を重要視される企業を想定しているという理解であっているか。または、特に重要なリスク・機会がわかるようになるのか。

- ・ 環境省：まず NPE プラットフォーム版と Excel 版でロングリストに含まれるリスク・機会は同様である。その上で、リスク・機会について大・中・小で重要度を示せないかと考えたが、重要度評価の理由付けが難しいほか、重要ではないというミスリードに繋がることを避けるために、今回は重要度を示さない方針。他方で、VC マップの方で主要なリスク・機会を抜粋して示すことでわかりやすい資料一式とすることを想定。
- ・ L・E・A は個社で分析し、集まって P について議論するという進め方が多い。したがって、VC マップは、事務局のとおり案 A・B の折衷案ということで良い。
- ・ NPE プラットフォーム版について、右側に対応策が記載されているが、企業としては対応策の検討に時間を要する。リスク・機会だけを見て戦略を検討する担当者はいない。リスクは、なぜその活動が必要なのかを上司等に説明する際のツールとなる。「どのようなところで自然にインパクトを与えており、どのような対応策が必要なのか、なぜやらないといけないか」というと、このようなリスクがあるからである」ということがわかりやすく表示されると使い勝手の良いツールになるのではないか。
- ・ VC におけるリスク・機会の全体を俯瞰する資料としては案 A があつた方がよいが、案 B のようにリスク・機会のカテゴリ別の資料もないと具体的な議論が難しいため、事務局の説明のとおり案 A・B セットでの公表が良い。
その上で、影響度・頻度などの情報をうまく入れ込めると良いのではないかと。また、案 A について End of Life という記載が上部にあるが、中身では記載がないため削除するかどうかなど検討いただきたい。
- ・ LCA を担当する方にとっては案 A がわかりやすいのではないかと想定しているが、案 B がわかりやすいという方もいる可能性がある。他委員と同様に案 A・B セットでの公表で良いと考える。

論点③TNFD フォーラムメンバー企業の意見公募方針

- ・ フォーラムメンバーの皆様に意見公募を行うということで良いか。アンケートについて、どのようなアウトプットをイメージされているのか。各質問の属性等による分析を実施するのか。
LEAP の着手度合によっても回答結果が異なると考えられる。また、フォーラムメンバーに意見公募を行うとのことだが、金融機関等も幅広く意見公募を行うのか。

- ・ 環境省・事務局：特定のセクターに絞ってご連絡することが難しいと伺っているため、フォーラムメンバーの皆様全体に意見公募を実施する想定。幅広くご意見をいただくのはありがたい。
 アンケートは、クロス分析を実施し、属性ごとにどのような御回答をいただいているのかを分析予定。
 特定のセクターに向けたアンケート配信は難しいとのことだが、おそらく企業、金融機関という単位ではスクリーニングできるため、非金融機関を対象にしたい。ロングリスト及び VC マップの想定利用者は企業であるため、その軸はぶらさずに、企業以外の皆様にもご意見をいただける場合には幅広く公募するものと想定。
- ・ 設問案に違和感はない。他方で、アンケート期間が1週間程度と記載があったが、延ばす必要があるのではないか。まだ TNFD 分析に習熟していない企業も多数存在すると考えられるほか、社内コミュニケーション等を考えると3週間程度はあった方がよい。
- ・ ウェビナーで説明されると思うが、参加できない企業は録画を確認するものと想定。回答率を上げるためにも可能な範囲で回答期間を延ばしていただけるとよい。
- ・
- ・ 分析に要した時間については良いが、省力化にどれだけつながっているかについて定量的に回答するのは難しいため、定性的な選択肢とした方がよい。
- ・ 分析に要した時間にかかる設問について、チームで作業している担当者もいるほか、コンサル会社に委託している(=実作業は少ない)場合もあるため、期間とした方がよい。

論点④公表以降の展開

- ・ TNFD 開示をするためだけのツールではないことを示す必要がある。また、LEAP 分析の過程だけで対応することは難しい。アパレル業界の企業と議論する場合にも化学業界の企業を巻き込む必要がある。そのような状況を踏まえ、複数セクターでPについて議論する場が欲しい。SC 全体で議論して対応策を検討することや、金融側が SC 全体を見て融資の判断をすること等についての意識づけが必要ではないか。
 調達に関するコアメンバー会議との連携についてはどのように考えているのか。
- ・ 環境省：具体的な進め方のスケジュールは前後しており、調達コアメンバー会議の第1回は10月下旬を予定。調達における NP 配慮事項やリスク・機会ロングリストを複数セクター/企業が集まって議論する場でご活用いただけることを目指し整理を進める。コアメンバー会議はそれぞれ別で開催するが、各会議間の関係性を踏まえて相互連携をする必要があると認識。

- ・ TNFD も移行計画のディスカッションペーパーを発行しており、セクター横断のランドスケープアプローチが必要になるとされている。日本の産業界では当初から個社単独での対応は難しいのではないかと声があったが、徐々にそのような状況になってきている。ランドスケープアプローチに関連する企業事例があればロングリスト内の企業の対応策例に引用してもよいが、そのあたりの対応は今後環境省で検討いただきたい。TNFD 今年度末頃にガイダンスとして公表予定であり、そのあたりも参考にさせていただくと良い。

また、金融セクターにおいて、企業融資の担当者は融資先の企業だけを見ているが、紐づくサプライヤーも同様にやっていることを理解すると、提案する内容が変わるほか営業範囲が広がる。金融機関の機会の観点でも担当者の理解促進は重要。

- ・ TNFD でマストになっているのは直接操業。また、企業にとってインパクト、リスクが大きいのは上流。直接操業について、事業所が位置しているだけで自然にインパクトを与えているという視点を持っている経営者は少ない。ランドスケープアプローチでは、地域に位置する他企業や自治体等と一体となった取組(例:流域保全等)が必要となる。企業から動くことも当然重要だが、日本においては自治体から企業に声をかける方が、取組が進みやすいと考えられるため、支援をお願いしたい。

上流については1社ではない。製造業は全体として上流は繋がっている。インパクトが大きいのは鉱物の採掘だが、サプライチェーンをたどることが非常に難しい。個社として TNFD 分析を実施し、リスクに関する対応策を SC 上の企業と議論することには限界がある。木材等の VC が短いコモディティについてはインパクトの小さい商品だけ調達することも可能だが、鉱物については VC が長く難しい。特にリスクが高いのはどの地域のどの鉱物なのかについての分析は、個社が実施するものとは考えづらいため、日本企業がどのようにリスク管理/対策すべきかについて、国が検討/整理する必要があるのではないかと。

- ・ グローバル VC の対応は1社単独では難しいため支援をご検討いただきたい。

各社の取組や世の中の情勢は変化していくため、ロングリスト・VC マップの更新タイミングを年に1回など決めておいた方が良いのではないかと。

また、うまく使いこなせる企業とそうでない企業が出てくるため、ナレッジシェアのようなことも検討いただけると良いのではないかと。

以上